

学位論文審査の結果の要旨

岩本 洋

本研究は、食品アレルギーの臨床診断において有用性が注目されている好塩基球活性化試験に着目し、これを実験動物であるマウスに導入することで、低アレルギー性食品の免疫学的評価への応用を検討したものである。

低アレルギー性食品の免疫学的検討において有用なツールを開発することを目的に、まず、マウス好塩基球活性化試験法の確立を行った。それをもとに、乳タンパク質加水分解物の免疫学的評価（アレルギー性の評価および経皮免疫原性の評価）を実施することにより、その実用性を検証した。更にこの試験法により、経口免疫寛容誘導能の評価にまで応用可能であることを実証した。

本研究により、マウス好塩基球活性化試験は、高品質で安全な低アレルギー性食品の開発に資するに留まらず、広く免疫・アレルギー研究の進展に貢献するものとも考えられ、学術上のみならず、実用面からも高く評価できる。

以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。